

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

2月23日

第4聖日

3340号

「恵みと平安」

(Iテサロニケ連続講演第一回)

聖言

パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたの上にありますように。Iテサロニケ1:1

心にキリストをお迎えする

私はいつも五つの鍵を持ち歩いています。違う鍵を差し込んであいたことは一度もありません。慌てるほど違う鍵を入れてしまいます。困ったものです。人間の心の扉には鍵穴がありません。外側から開けられない仕組みになっています。どんなに制裁や脅しを受けても余計に頑なに心の扉を堅く閉ざしてしまいます。人間の心の扉を開く唯一の方法はイエス・キリストの十字架のもとに罪の重荷をおろす時、キリストの愛が心に迫ってきて自ずと心の扉を開くのです。イエス様はあなたの心に入る事を願っておられます。しかし、こじ開けて入ろうとされるのではなく、あなたが自発的に心を開いて受け入れることを待っています。キリストはあなたの心の外で凍える寒さに身を震わせながら立っておられます。あなたは御自分を何様だとお考えなのですか。イエス・キリストを何様と思っているのですか。あなたが呼吸をしているのも、心臓が動いているのも、考えるのも、行動できるのも、すべてこの方により生かされているのです。よくもまあ、このようなお方を自分の部屋を見せられないからといって締め出しているものだ。何故なら部屋の中は汚れた、偶像と好色と不品行と偽善だらけだからである。主はこれらの罪を負って身代わりに十字架にかかって下さろうとしているのに、頑なにキリストを心に迎え入れるのを拒むとは、許されないことである。今あなたの心にキリストをお迎えするために心の汚れを洗いきよめていただきますように。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年二月一六日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「終わりの祝福」

「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンの足を踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。」(ローマ一六ノ二〇)

ローマ人の手紙の最後の挨拶である。コリントの収入役のエラスと兄弟クワルトたちもよろしくと挨拶を送る。パウロの宣教によりあらゆる階層から信者が起こった。人種、身分、貧富の如何によらず、クリスチャンは一つである。見たことのないローマの信者を愛しているのである。神の奥義はキリストの中に現れている。

二〇一四年 二月一九日午後七時 祈禱会 山本牧師

「神のあわれみ」

「私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、主が天から見下ろして、顧みてくださる時まで続く。」(哀歌三ノ四九、五〇)

真の預言者エレミヤは神の怒りを民に徹底的に下した。多くの民の中から選ばれ、彼らを通して神の義と聖と愛と祝福を表された神のたいしてイスラエルの民は偶像と好色と姦淫によって神を追い出してしまった。しかし、エレミヤは民を断罪するだけでなく、民の罪を自己の罪としてその罪を負って神の裁きを共に受けた。これは正しく六〇〇年後に顕れた主イエスキリストの予型である。

宣教⑩

第三課 歴史の主人公になられた神

—世界宣教の歴史—

三、五、二 近代宣教の新星として登場したモラヴィアン教徒ルターの宗教改革(一五二七年)から約一〇〇年後、ヨーロッパのプロテスタントとカトリックの間で起きたのが「三〇年戦争」だ。この戦争は様々な国の利害関係が絡んでおり、戦争の中心地となったドイツは三分の一に減るほどの廃墟となった。

この戦争によって崩壊した信仰の覚醒のため、フィリップ・シユペーナーはドイツ敬虔主義運動 (Pietism) を起こした。この運動の影響で、ツインツェンドルフ伯爵は一七二二年、モラヴィアの難民を自身の領地に受け入れて彼らと共同体を形成し、信仰のリバイバルと宣教の情熱に火をつける契機となった。この信仰共同体では一七二七年から約一〇〇年間、昼夜問わず宣教祈禱会が続けられ、徹底した自給宣教による一般信徒の宣教師を通して、爆発的な宣教が起こった。彼らの宣教活動によって、わずか二〇年でプロテスタント教会全体が二〇〇年間に送り出した宣教師よりも多くの宣教師が輩出した。初代教会以来、再び自発的に行く宣教の原型を示したと言える。

a)モラヴィアン教徒の宣教方法

彼らは熟練した労働者を宣教師として派遣し、未信者の中で暮らしながら指導する方法を用いた。宣教師は伝道訓練を受けた一般信徒で、支援を受けない自給自足の宣教師だった。ある地域に派遣された宣教師がなくなる場合、くじ引きで宣教師を送るほど、すべての信徒が宣教師として備えられていた。

(ワイ・ミッシュンより)

第十四回癒し五〇日連続祈禱

一月二六日(日)〜三月二六日(日)

午後一時〜午後時半

(祈りの後、楽しいティーで休憩)

場所 教会三階(気軽に参加して共に祈りましょう)

三月行事計画

- 七日(金) 月一回楽しい祈り 午後一時
- 一日(火) 納骨堂掃除 午前一〇時
- 一三日(木) 榎原家庭集会 午後二時
- 一七日(日) イースター克己献金約束

二五日(月) 東洋聖書神学院論文発表牧師会 午後二時
 会計役員 尾瀬姉 小段姉、大内姉

三月の召天会員

二日	鬼石	常雄兄	三六周年
二日	大内	正三兄	四周年
四日	篠原	操姉	四四周年
四日	小笹	保治兄	三七周年
四日	北田	アイ姉	二六周年
五日	北田	桂子姉	七三周年
五日	小段	太之助兄	七二周年
一日	渡部	昭先生	四周年
十二日	紺本	おくら姉	五九周年
十二日	李	恩恵姉	五六周年
十七日	大殿	はる姉	一九周年
十八日	中瀬	敏子姉	三五周年
二〇日	李	実岳姉	三周年
二二日	朴	鳳礼姉	五二周年
二七日	村山	世津子姉	七一周年
三〇日	山村	美代子姉	七三周年
三一日	尾田	正義兄	三六周年

今年の教会受難カレンダー

- ① 灰の水曜日三月五日(水)
- ② 四旬節(レント)三月五日(水) ～ 四月一九日(土)
- ③ 棕櫚の主日…四月一三日(日) マタイ二一ノ一～十一、ヨハネ十二ノ十二～十九

- ④ 受難週四月一三日(日) ～ 四月一九日(土) マタイ二一ノ二七章、ヨハネ十二ノ十九章
- ⑤ 洗足木曜日四月十七日(木) ヨハネ十三ノ一～十七
- ⑥ 受難日四月一八日(金) ルカ二三ノ三三
- ⑦ イースター四月二〇日(日) マタイ二八ノ二～四
- ⑧ 昇天日 五月二九日(木) マルコ一六ノ一九ルカ二四ノ五一
- ⑨ 聖霊降臨日 六月八日(日) 使徒二ノ一

教団二〇一四年計画

- 三月二五日(月) 午後二時 論文発表 牧師会
- 四月二〇日(日) イースター
- 五月五日(月) ペンテコステ聖会
- 六月一日(日) 合同召天記念会
 午前、午後、夜、牧師会
- 七月 牧師会
- 八月一四日(木) 韓国学生四国集会
- 九月二三日(月) 仮庵聖会 再臨待望聖会
- 十月一三日(月) ヨベルリバイバル
 賛美 水野夏子姉
 説教午後 足達牧師
 夜 山本牧師
- 十一月二日(日) 教団六六周年記念礼拝
- 十一月三日(月) 紺本薫教団創立者召天十周年記念会 於米子